

平成 24 年度 推薦入試試験問題（文学科 英語英文学専攻）解答例

【採点のポイント】

- ・ 本文の内容が的確に要約されているか。女性の中の結婚願望の高まりとライフスタイルや人生観の変化が言及されていること。
- ・ 要約をふまえて自分の考えが的確に述べられているか。
- ・ 文章が論理的に構成されているか。
- ・ 高卒程度の語彙力、および日本語表現能力があるか。
- ・ 字数制限を満たしているか。

【解答例】

2011 年 3 月に起きた東日本大震災と福島第一原子力発電所事故は、身近な命が簡単に失われてしまう災害が現実になりうることを、そして人生は一步先が闇であることを人々に気づかせた。この認識は、結婚して家族を持ちたいという願望の高まりを女性の中に生み出している。ある大手結婚仲介業者では 3 月以降女性会員数が 13% 増加し、別の仲介業者では今年 3 月と 4 月の会員間の結婚が前年同時期よりも 20% 増加した。大手百貨店でも婚約指輪、結婚指輪の売り上げが増加している。また全国の母親を対象とした世論調査では、76% が 3 月以降ライフスタイルや人生観が変化したと答えている。これらの変化の例として、人生観の変化や家族・友人との人間関係の変化があったと回答した者が多くいた。

3 月の震災と原発事故をきっかけに、人々の間に結婚して家族を持ちたいという願望が高まり、実際に結婚する人が増えていることは、裏を返せば、結婚できるにもかかわらず結婚しなかった人が震災前に多くいたことを示している。日本ではかつて適齢に達したものは結婚し、家族を持つことが当たり前とする価値観が支配的だった。しかし 1990 年代以降、男女雇用機会均等法などにより女性が社会進出するにしがたい、仕事や経済的な成功に生き甲斐を見いだす女性が増加した。これによって結婚して家族を持つことが唯一の価値観ではなくなり、年々婚姻率が下がっていたのである。震災によって結婚や家族を持つことの大切さが見直されたことが、現在見られる結婚願望の高まりや婚姻数の増加につながっている。この傾向が今後も続くか、あるいは一時的なものかは時間が経たないと分からない。しかし震災によって労働環境は悪化しており、今後改善までには時間がかかることが予測される。したがって今しばらくは、女性が結婚をして家庭を持つことに強い関心を持ち続けるのではないかと私は考える。(778 字)